

總長 軍事機密

法長

一印長

第三十一軍司令官ニ對スル第一部長全般戰況説明

二譯長

高長



昭和十九年二月二十六日

59

0953

第三軍司令官ニ對スル第一部長ノ帝國全般戰況ニ關スル説明

命ニ依リ帝國陸軍ノ戰況ニ關シ説明ス

本月初頭以來敵ノ中部太平洋方面ノ策動極メテ活潑ニシテトモ

トラツク島ニ對スル大機動部隊ノ空襲ハ帝國國防圈ニ進攻セル

モノニシテ戰爭指導上ト眞ニ樂觀ヲ許ササルモノアリ爾他各正面ニ於テ

ハ第二線ノ將兵ハ決死敢闘中ニシテ戰局遂次重大化シツツアリ各正

面ノ戰況左ノ如シ

一南東方面ニ就テ

南東方面ニ於テハ方面軍司令官以下各部隊ハ最大ノ努力ヲ發揮シ

60

以テ全局作戰ヲ有利ナラシムルコトニ關シ眞ニ非常ノ決意ヲ以テ連
日力戰奮闘中ニシテ各方面ノ戰況左ノ如シ

東部ヨニーギヤ方面ニ於テ八月二日輸送船約三十隻ヲ主體トスル有力
ナル船團(二師團弱)ハラグ近附近ニ上陸ヲ開始シフィンシ方面激戰
中ノ第三十師團及ラフィンステル山系ヲ直進シヨシオノギアリ附近
ニ集結シ戰力ヲ恢復中ノ第五十師團計一萬三千ノ兵力ハ後方ヲ遮
斷セラレタル狀況ヲ呈シタルヲ以テ第十八軍司令官ハ敵ニ打撃ヲ
與ヘツ前項兵力ヲ後方「マダン」地區ニ集結セシムル如ク處

置シ部隊ハ至大ノ困難ヲ克服シテ轉進ヲ開始シ

概ネ豫定ノ如ク進揚中ニシテ第五十一師團

其大部ハ既ニヒリアウ以西ノ地區ニ進出シ二十日頃迄

其一部ハ二月八日付ニシテ附近ニ到着セリ

第二十一師團先遣隊ハ通信杜絶不明ナルモ一日マ

ハ附近ニ進出シツツアルモト判断セラル

中野集團主力カ「マラカム」附近集結ハ大ナル支障

ナキ限リ二月下旬宛ニ得ル見込ニナリ

「マダン」附近ニ於テハ第四十一師團主力ヲ基幹ト

61

0956

スル兵カヲ以テ防備ヲ強化中ニシテ第十八軍ハ前
項轉進兵力ヲ殆クシテ戰カトシテハ期待シ得ズ主力
南下向マダシニ東方地區ニ集結豫定シテ併セ極
力敵ヲ拒止スヘク著々準備中ナリ
三ノギニヤ方面ニ於ケル我軍ノ海上勢力及航空戰
力ノ低下ニ伴ヒ敵ハ一舉更ニ跳躍前進ヲ企圖スル
公算大ニシテ延テ濠北正面作戰準備ニ及ハス影響
極メテ大ナルモノアリ

0957

陸軍航空部隊（現在木機）^{五。} ^{八一時} 兵力ヲ增強セ^{エタルモ}

東部「ニューギニア」方面戦局爾後ノ推移ハ樂觀ヲ

許ササル狀況ニ在リ

西部「ニューブリテン」「マーカー」岬方面ニ於テハ其後

大ナル變化ナク小森部隊ハ其都度果敢ナル反

撃ヲ加ヘ相當ノ戦果ヲ收メ目下舊「アラウエ」飛

行場附近ヲ確保敵ト相對峙シアリ 十二月二十六

日輸送船約七十五隻ヲ主體トスル大船團ハ優

62

0958

勢ナル航空艦隊護衛ノ許ニ「グロスター」岬及ヲ
夕モ附近ニ上陸所在松田支隊及陸海航空部隊ハ
連日果敢ナル反撃ヲ加ヘ多大ノ損害ヲ與ヘタルモ我
亦著シク其戦力ヲ喪失シ糧食モ其日暮シノ狀
況ニシテ追送ノ見込立タス一月下旬方面軍ニ於テ各
種研究ノ結果第十七師團ヲシテ之等部隊ヲ
補給ノ見込アル後方ヲイボギ附近ニ集結セシムルニ
決シ目下支隊ハ轉進ヲ實施中ニシテ

大部ハ「イボギ」

0959

カカヤイノ間ノ地区ヲノホギ附近ニ向ヒ轉行進
附近ニ到着セリ

中

ワカヤイノ

ソロモンノ方面ダロキナノ附近ノ戦況其後大ナル變化

第十七軍ハ三月上旬全カヲ以テ「タロキナ」攻撃ヲ計畫シ目

ナク「備後」攻勢ヲ準備中「敵ハ既ニ「タロキナ」大
下着々」ニテ二十五日軍司令官ノ戰鬪司令所ニ前導リ

飛行場群ヲ完成 戦爆連合ノ強力ナル基地ヲ構

成シ「ラバウル」空襲ノ根據タラシメツツヤリ

「前哨」敵ハ「バグリー」島ニ陸上近ク「アドミラル」若クハ「ニヤル」島ニ陸上算入アリ

「ラバウル」ニ於テハ敵ハ航空撃ヲ企圖シ概シ不連

日「ロー」機ノ戦爆連合ノ大編隊ヲ以テ晝間

63

0960

攻撃ヲ實施中ニシテ海軍航空部隊

(戦闘機五機
約五機程度)

ハ連日果敢ナル激撃ヲ實施中ナリ

「ラバウル」ニ於テハ方面軍ハ約六萬ノ兵力ヲ以テ殆ト

大型船ノ投入ハ至難ナル今日集積セラレタル軍需

品ヲ巧ニ秘匿分散シ第三十八師團ヲ骨幹トシテ

「ラバウル」周邊ノ地區ヲ南東ノ總複郭タラシムル

如ク全力ヲ擧ケテ防備ヲ強化中ナリ

二 中部太平洋方面ニ就テ

ギルバート作戦以降太平洋方面ニ嚴ニ警戒ヲ實
施シアリシカ一月下旬敵ノ有力ナル水上部隊ハワイ
出港ノ報ニ接シ次テ一月三十日早朝ヨリイルオット
「ゲゼリン」「ウホツジ」「マロエラップ」各島ニ大空襲アリ
所在海軍航空部隊(四―五)機程度ナランハ之ヲ
反撃シ若干ノ敵艦船ニ損害ヲ與ヘタル如キモ殆
ト全滅、通信又杜絶セリ
二月一日機動部隊及戦艦以下十二輸送船四十五ヲ

主體トセル敵ノ大部隊ハコケゼリシニ上陸ヲ開如

シ當初一時撃手退セルカ如キモ敵ハ後續部隊ヲ

續々増援セルモノ如ク二月三日敵ハハルオットト占領

ヲ二月六日コケゼリシ占領ヲ發表セリ目下通信杜

絶狀況不明ナリ戦艦ニ一四ヲ基幹トスノ大機動部隊ハトラス

十有末以來本作戦ニ於テ敵ニ與ハタル損害甚シク如レ

撃墜機數

約六十五機

撃沈

巡洋艦十

0963

擊破

驅逐艦

巡洋艦

驅逐艦

火災

中部太平洋方面陸軍部隊ハ第三十三師團(目下

主力)トラック(島ニ在リ)南洋支隊五ヶヲ基幹トス

ル約三萬ノ兵力ニシテ之ヲ海軍ノ指揮下ニ入レ防

衛ニ任シアルモ更ニ現下シ狀況ノ變化ニ鑑ミ即

劃期的兵力ヲ増勢シツアリ

急謀策ヲ進メシツアリ

中部太平洋方面ニ於ル敵ノ企圖ハ不明ナルモ敵有スル優勢ナル空海戦力ヲ統合セバ相當放膽ニ作戰ヲ遂行シ得ヘク眞ニ樂觀ヲ許サル狀況ナリ

1941
22

65

0964

三 南西(緬甸方面)ニ就テ

緬甸方面特ニ「アキヤブ」正面ノ敵ハ依然滲透且

據點攻略的ニ我カ第一線ニ接觸シ蠢動ヲ續

ケアリ、宣傳ト相俟テ反攻ヲ企圖スルカ如キモ怒

江正面ノ重慶軍、印緬國境ノ英印軍共ニ未タ全

面的反攻ノ域ニ達シアラサルカ如シ

一月下旬頃ヨリ「ブチドン」モシド」正面ニ於ケル敵

兵力ハ約十五大隊、砲約六十門程度ニ増強セラレ

0965

マニラ山系以東ノ地區ニ其主力ヲ展開、遂次我カ
右翼ノ包圍ヲ企圖シアルカ如ク、マニラ山系以西ニ
於テハ步兵約五大隊砲約二十數門ヲ有スル敵ハ
前面ニ進出シアリ
以上ノ敵情ニ基キ、緬甸方面軍ハ緬甸防衛強化ノ
爲、三月上旬頃ヲ期シ、第三十一、第十五、第三十三師
團ヲ以テ「インパール」進攻作戰ヲ企圖シアリテ、月
下旬既ニ展開命令ヲ下達シ著々爾後ノ作戰

0966

ヲ準備中ナリ右作戰ニ先タチ成ルヘク多クノ敵ヲ
モンドロ方面(海岸地區)ニ牽制スル目的ヲ以テ
第五十五師團ハ二月四日午時主カラ以テマユ河
左岸地區ヨリ攻勢ニ轉シ九時トングバザレヲ
占領同地附近ノ敵ヲ撃滅シ引續キマユ河ヲ
渡河反轉南下シブチドン北側地區ヨリ攻勢ニ轉
移セル部隊ト相呼應シテ目下「マユ」山系以東ノ敵
ヲ撃滅中ニシテ第五飛行師團ノ退路遮斷ト相

0967

俟テ敵ニ甚大ナル打撃ヲ與ヘツツアリ

該方面ノ敵ハ早クモ動搖シ逐次退却ヲ開始シ
一擲、尚各所ニ殘存シ表動ヲ續ケツツアリ

一月下旬緬甸西南海岸防衛強化ノ爲メ第二十八軍ヲ
馬來半島及「アングマン」「ニコバル」諸島強化ノ爲メ第
二十九軍各々新設セラレタリ

四 北東方面ニ就テ

北千島方面ニ對スル敵ノ空襲ハ昨年十二月以來頻

67

0968

増シ二月四日敵機約十數機北千島方面ニ來襲

占守島及武藏、摺鉢地區ヲ攻撃セリ

又敵ノ驅逐艦約八隻ハ該地區ヲ砲撃セリ

中部太平洋方面ノ敵ノ動靜及作戰緊急通信ノ

増加等ト相俟テ北東方面我態勢ノ不備ニ乘

シ千島要部ニ進攻スル公算少シトセス

目下之カ警戒ヲ嚴ナラシムルト共ニ劃期的對策

ヲ精シツツアリ
依進ヲ企圖セリ

0969

五其他正面

濠北正面ニ於テハ作戰準備ハ概ネ豫定ノ如ク進

捗中ニシテ第三十六師團ハ二月下旬ヲガルミ附近

ニ配置ヲ完了シ第四十六師團ハ目下コラロレスヒスン

ハ島方面ニ輸送中ナリ

其他ノ方面大ナル變化ナシ

六海上交通保護ニ就テ

海上交通保護ニ關シテハ先般説明セル如ク誠

0970

ニ憂慮スヘキ狀況ニシテ陸海軍共銳意之方對策
 ヲ實行中ナルモ敵ノ海上交通破壊作戰亦熾烈ヲ
 極メ

十二月ノ損耗

沈没 一八〇七萬噸

損傷 二二〇七萬噸

計 二九一四萬噸

一月ノ損耗

沈没 三〇五九萬噸

計 四二一五萬噸

損傷 一三三六萬噸

ノ損耗ニシテ開戦以來ノ最大ノ記録ヲ示セリ

之ニ對シ海軍ノ護衛兵力ハ二月初頭現在ニ於テ飛行

機六五六機 艦艇一五七隻ニシテ其性能及素質

亦良好ナラス保護力ノ劃期的向上ヲ期シ得サル

ハ誠ニ遺憾ナリ 目下海軍ハ南西諸島、臺灣、比

島以西ヲ内海化スル目途ヲ以テ飛行機ノ配置

機雷堰ノ設置等ヲ著々實行中ナリ

0972

陸軍ニ於テモ昨年來帝國近海及比島支那沿岸附近ニ於テ對潛哨戒飛行ヲ以テ實施中ニシテ又南西諸島及北東方面ニ部ハ増派朝鮮海峽確保強化等逐次強化ヲ策シツツアルモ此等陸海軍護衛力效果發揮ノ時機ハ五六月以降ニシテ現下ノ狀況ニ於テ三四月ノ候船舶問題ハ實ニ重大ナル時機到來ヲ豫想セラレアリ

0973